

2017年7月10日

飼い主の皆様へ

ヒアリに関する情報提供

1. はじめに

平成29年5月26日、兵庫県尼崎市で、中国から神戸港に輸入されたコンテナの中で南米産の特定外来生物に指定された「ヒアリ」が発見され、その後神戸港や名古屋港、大阪港でも発見が相次ぎました。そして、7月6日、東京都環境局は大井埠頭のコンテナ内で発見されたと報告しました。

ヒアリはヒトのみならず他の動物にも被害を及ぼす懸念があることから、注意が必要です。

2. 生態、特徴

ヒアリ (*Solenopsis invicta*) は体長 2.5-6.5mm の光沢のある赤褐色のアリです。主に公園や農耕地で、土でできたアリ塚を形成します。雑食性で、昆虫や、トカゲ、樹液、花蜜及び種子などを好みます。非常に攻撃的で腹部の先端に毒針を持ち、攻撃の対象を刺します。毒液にはアルカロイド系に属するソレノプシンの他、ハチ毒に類するものも含まれます。

3. 動物での症状

ヒアリに刺された動物は突然刺された部位を気にして掻いたり、咬んだりし始め、痛みのためにものにこすりついたり転げ回ったりします。

多くの動物では、刺されたあとすぐに刺されたところが赤く腫れます。通常は30～60分で消えていきますが、その間に動物が刺された場所を激しく咬んだり引っかいたりすると二次的に感染が起きて、ひどくなることもあります。感染が起きなくても化膿したような病変ができることも知られています(無菌性化膿)。アレルギー反応が強くと、アナフィラキシーを起こして致命的になることもあるので注意が必要です。

4. 初期の対応法

(ア)ヒアリの除去 アリ塚がそばにあると大量のアリに襲われる可能性があるため、その場所にとどまらないようにします。できるだけグロー

ブやタオルのようなものを使って除去するとよいでしょう。水をかけるとアリがパニックを起し攻撃性が高まるといわれているので、絶対に避けてください。

(イ)咬まれた場所の応急処置 咬まれたところを冷やしたり、重曹水を塗布することは有効のようです。抗ヒスタミン剤の塗布も効果が期待できます。また、痛みが遠のくまで動物が気にしないようタオルなどで保護することが望まれます。エリザベスカラーをお持ちの方は利用するといいでしょう。

(ウ)動物病院 咬まれたあと 30 分から 1 時間は安静を保ち、観察して下さい。通常は時間と共に自然におさまっていきませんが、観察中に元気がなくなったり呼吸の異常が見られたりした際には命に関わることもあります。すぐに動物病院での治療を受けてください。

5. 予防

普段から、犬は放し飼いにしたりせず、運動中もリードをつけてアリ塚に近づかないよう気を付けてください。ヒアリを発見した際には、地域を管轄する保健所にご連絡ください。

6. ヒアリ関連サイト

環境省

https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_fireant.pdf

国際社会性昆虫学会日本地区会

<https://sites.google.com/site/iussijapan/fireant>

東京都環境局 ヒアリについて

http://gairaisyu.tokyo/species/danger_15.html?t=1&cn=ZmxleGlibGVfcmVjc18y&iid=e93a9fcf13854543ae534b2f97b37371&uid=269601652&nid=244+276893704